



資源と産業

持続可能な農業・林業の実現を目指して

地球上では、農地拡大のため、年間1千万畝の森林が破壊されています。これは北海道の面積を超える広さです。地球温暖化、砂漠化、生物多様性の減少など、多くの環境問題は、森林と深く関わっています。

また、農業が行われる場所には、必ず自然が存在しています。過剰な農地開発や、需要と供給を無視した生産は、環境破壊や気候変動を引き起こす原因にもなりかねません。自然に配慮しながら農地を管理し続けることで環境保全に

つながるといえます。「自然」は、私たちにとても身近なテーマです。一人一人が身近にある自然の現状や取り組みを理解して、大切に思うこと、環境に配慮した生活を心掛けることが大切です。

循環型農業

SDGs×循環型農業

資源循環型農業とは、廃棄物などを有機資源として活用し、環境の負荷軽減を目指す農業です。



環境保全米を多く生産する市内の水田から採れた稲わらを食べて育った家畜の排せつ物は、市内7カ所にある有機センターなどで有機堆肥となり、農地に還元しています。こうした環境に優しい耕畜連携の資源循環型農業が市全域で行われています。



SDGs×畜産

地元の水田や畑で採れる良質な稲わらや牧草などを食べることで、牛の健康を保ち、信頼できる品質の牛肉を消費者へ届けることを実現しています。また、有機センターなどを利用して堆肥を処理することで、清潔な畜舎を保つことができます。

SDGs×稲作

登米市は環境保全型農業を推進しており、農薬や化学肥料を通常の半分以下に減らす「環境保全米」を作る水田が約80%を占めています。この稲わらを牛のエサや牛舎への敷料として利用し、家畜の排せつ物から作られた堆肥を農地に還元することで、資源が無駄なく循環する仕組みができています。



循環型農業

SDGs×有機センター

市内7カ所の有機センターでは、家畜から発生する排せつ物を発酵させ、栄養豊富な堆肥として農地へ還元しています。有機センターで作られる堆肥は、家畜のふん尿をそのまま利



とよま有機センター 阿部 良彦 さん

用するよりも発酵・分解が進み肥料としての性質が高いという特徴があり、作物がよく育つ効果が期待できます。また、世界情勢の影響に伴い化学肥料原料の国際価格が大幅に上昇し、農産物の生産に欠かせない肥料価格が高騰しています。有機センターでは、良質な肥料提供の推進と農作物生産コスト低減に向けて、製品堆肥の一般販売を行っています。

【問い合わせ】産業経済部農政課（畜産振興係）
 ☎0220(34)2713
 みやぎ登米農業協同組合畜産課
 ☎0220(34)8511

FSC森林認証

SDGs×森林管理協議会

総面積の41%を森林面積が占める県内有数の林業地域である登米市は、2016年にFSC森林認証を取得しました。この森林を管理、経営する組織が「登米市森林管理協議会」です。22年現在の管理面積は9162畝。市内の認証林では4つの林業事業体が素材生産を行い、これらの認証材を流通事務局が一元的に管理することでトレーサビリティ（生産から流通までの過程を明確にすること）を確保しています。



登米町森林組合 竹中 雅治 さん

また、認証材の需要拡大に向け、製品開発事業者への各種サポートや、太陽熱を利用した木材乾燥庫の導入による環境にやさしい認証材供給の体制整備のほか、体験活動などを通じて森林への理解を深める「森林環境教育」の取り組みを推進しています。

FSC森林認証はSDGsの「陸の豊かさを守ろう」をはじめとする14の目標達成に貢献しています。そして、FSC森林認証は環境・社会・経済のバランスをとって作られた「10の原則」に基づき行われており、これらの多くはSDGsに共通する内容となっています。協議会は、登米市の豊かな森林資源を生かし、次代へ受け継ぐため、持続可能な森林経営に取り組みんでいます。



登米市森林管理協議会ホームページ

(FSC-C132109)

FSC森林認証

SDGs×FSC森林認証

FSC®森林認証とは、持続可能な森林活用・保全を目的とした「適切な森林管理」を認証する国際的な制度です。認証を受けた森林で生産された木材を使用した製品にはFSCロゴマークがつけられます。FSCマークのある製品を選ぶことは、世界的な森林の減少・劣化の問題と向き合います。



無秩序な森林伐採、違法伐採などを抑制する動きに参加することにもなります。

【問い合わせ】産業経済部農林振興課（林業振興係）
 ☎0220(34)2709

